

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490900018		
法人名	社会福祉法人 積善会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	豊後高田市呉崎775-10		
自己評価作成日	令和1年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誤嚥性肺炎ゼロを目指し口腔ケアの徹底を行っている。得意なことや好きなことを楽しめる時間を提供し日々生き活きと過ごしていただけるように利用者本位のサービスを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体の病院や協力医との連携が良く、医療面で24時間安心である。
- ・利用者本位の支援に心掛け、その人らしい生きがいのある生活を送って頂けるよう努めている。
- ・施設内に介護ロボット(呼びかけに答えたり、歌ったり踊ったりする。)やアニマルセラピー犬がおり、利用者の心のやすらぎとなっている。
- ・内外の研修も充実しており、職員と利用者の信頼関係が築かれている。
- ・旅行やドライブなど日常的に外出が行われており、自然や社会に触れる機会が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関・廊下等に掲示いつでも目にして振り返るように意識付けを行っている。	理念を廊下など目に付く所に掲示しており、ケア会議でも確認するなど常に理念を意識してケアに当たっている。生きがいのある生活を目指し、利用者の要望を叶えるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流の一環として小学校の行事に参加したり、通信を頂いたりボランティアの受け入れをして交流を深めている。	地域の小学校の入学式に出席したり、運動会には競技に参加する事もある。劇団を結成し各地で上演して好評を博している。祭りの神輿が寄ったり、体操やおやつ作りなどのボランティアの頻繁な訪問がある。地域との交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人自身がSOSネットワークに加入しており必要時は参加している。白ねぎ隊(劇)を通じての認知症の啓発活動を実施している。今年度はアルツハイマーデーの日にリーフレット配布に参加させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催しており活動報告や感染状況等を行っており。劇の公演依頼を発信している。	自治委員や老人クラブ、消防団、行政、本人家族等の参加のもと活動報告を行い意見を頂いている。老人クラブからの要望で劇団が上演して喜ばれている。消防団と一緒に避難訓練を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に4回やすらぎ便りを発行しており行政に配布している。	便りを市に配布して施設の活動を知らせている。待機者状況を報告し、法改正などわからないことがあれば直ぐに聞いている。担当職員と馴染みになっており相談しやすくなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束委員会を開催しており認識の共有を図り身体拘束をしないケアに努めている。日中玄関の鍵は解錠して自由に入出りが可能、また一緒に寄り添い行動している。	法人内で研修が行われている。事例発表ではセンサーマットを使用しているが当然のことと思わず常に拘束をしないケアを模索している。外に出たいなどの行動は抑制せず、言葉もダメなどは言わないよう気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会に参加してケアの在り方を振り返っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定時にご家族に説明して同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けている。面会時に要望を聞き取り運営に反映している。	面会時に意見などを頂いている。意見箱を設けているがあまり利用がない。エアコンについて意見があり掃除に結び付いた。服装など細かい要望などはその都度取り組んで解決している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で意見等言える環境を作りまた管理者が一人一人の話を聞く時間を作るようにしている。	毎月ある会議の前に聞いている。普段でも一人ひとりの話を聞いている。食事介助を落ち着いてするために食事は別の場所でする事や、休憩時間の確保など職員の意見や利用者の様子を反映して業務改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務時間を配慮して下さっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の入れ替わりにより経験が少なくスキルにばらつきがあり統一したサービスの提供に向けて勉強会を法人内・毎月の会議で開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス質向上委員会を設け法人内全体で取り組んでいる。他施設を相互訪問し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との信頼関係を築いていけるようこれから導入するサービスに対して不安に思う事や要望等を伝えて頂きやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがご家族の不安や要望等をお聴きする時間を十分に設け把握し応えていくことで良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に十分な情報収集や適格なアセスメントを行うことでどのようなサービスが必要かを見極め適切なサービスに繋げていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴に触れ、又その情報を職員間で共有し自立した日常生活が送れるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡や面会時等に施設での様子を細かくお伝えしたり、施設行事やオレンジカフェ等に参加して頂くことで施設での生活の様子をご覧になり安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者を中心とした馴染みの方々の面会や外出など行っている。又生活歴などを知り外出支援として懐かしい思い出のある場所などにも出かけたたりしている。	友人や親せきなどが頻繁に訪ねてくる。近くのスーパーに出かけている。これまで行きつけの美容院に家族が連れて行ったり、毎月1回訪問美容があり、そこでまた新しい馴染みの関係が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の間で良好な関係づくりが築けている同士などを把握しテーブル配置や座られる場所などにも配慮した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退院されても関係機関との情報交換を行い様子や状況を伺っている。地域のコミュニティなども必要時活用していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で声を掛けご本人の意向の聞き取り、把握に努めている。又、聞き取りの難しい方にはご家族に聞き取りを行ない、支援シートに記入し本人本位の検討を行っている。	日々のかかわりの中において会話や様子で思いを感じ取っている。支援シートにある生活歴や好み、性格などを活用している。カンファレンスの中で見直しを検討し、今どういうことを望んでいるかを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来る限りこれまでの生活歴・個性や価値観等の情報を伝えてもらい職員全員が共有できるように努めている。ご家族参加のカンファレンスのみならず、面会時なども昔の事などを聞き、職員に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時は業務記録やケース記録に目を通し現状の把握に努めている。又、新たな発見があった場合は職員全員が共有できるように伝言板やスタッフミーティングで報告を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の生活歴を基に、入居者の方やご家族の思いが反映できるようにご本人・ご家族・関係者がアイデアを出し合い共有を行ない介護計画を作成している。。	毎月1回の会議の中で全職員の意見を聞き、家族からは面会時や自宅訪問で要望などを聞いて介護計画に反映している。自宅に外出させたいという家族の要望に足上げなど筋力をつける支援をプランに入れ外出できたという例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、カンファレンス時に担当職員より実践状況を聞きそれを基に介護計画書の評価や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を踏まえ通院等、必要な支援を行っている。又、一人一人のニーズに応えられるようにスタッフが外出支援の付き添い等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ各関係者から地域資源の聞き取り把握を行っている。又、地域の方にはグループホームを知って頂き外出支援などに繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添いが可能な場合は職員も付き添いを行い状態を細かく伝えるように行っている。受診後は家族・職員間で情報共有を図っている。協力医療機関が往診を行っている。	入居前のかかりつけ医をそのまま利用することができる。協力医の往診が隔週1回あり、急変時にはいつでも往診してくれる。家族が受診に行けない時は職員が同伴し結果を家族に報告している。随時訪問歯科もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり急変時等の支援を受け入れられるように体制をとっている。又、日常生活の中で小さな気づきも報告ができ連携が取れ情報共有ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、定期的に面会を行い、入院先医療機関との連携を深め調整を行っている。ここ一年半は入院者が出ていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の希望を確認し記録として残している。又、退院後意向の把握と今後の方向性を相談する場を設けている。	重度化した時の対応について指針を説明している。医師から特養ホーム入所を勧められたり、入院になることがある。看取りは希望があればできるように体制を整えている。重度化しないように口腔ケアに努め、誤嚥性肺炎ゼロを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの取り扱い方法など研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導と地元消防団と協同で避難訓練を行い1回は夜間想定で火災訓練を行っている。月1回施設内で避難訓練の実施を行っている。運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼している。災害時の備蓄を行っている。	消防署の指導により消防団と一緒に防災訓練を行っている。地震や火災を想定して避難や消火の訓練を行っている。場合によっては施設の2階や敷地内の他の建物に避難したりしている。施設内に3日分の米や水等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報の漏洩が無いよう個々の情報は外部の目に触れない場所に保管してある。居室は個室となっている。排泄誘導の際には声かけを耳元で行い、入浴や更衣の際も人目に付かない場所で行っている。	人生の大先輩であり、お客さまという認識をもって支援に当たっている。トイレ誘導ではさり気ない声掛けを行い、入浴時はカーテンを閉めるなど気を付けている。職員同士悪い点に気づけば注意し会議でも討議している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や生活する中で個々の希望の聞き取りを行い、本人の希望に添った援助やレクリエーションを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のその日の体調や気持ちを優先し、その方らしい生活が日々送れるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことができる方にはその日の服等を選んでいただけるように配慮し、個々の尊重を図っている。女性はお化粧をしたり、男性は起床時髭剃りを実施して整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週1回レストラン形式の昼食を提供している。旬の食材を使い季節を感じて頂けるよう、また能力に応じて一緒に準備や片付けを行っている。	配膳や片付けなど利用者ができることを一緒に行っている。週1回レストラン形式で食事をしたり、おやつ作りを一緒にしたりして楽しみながら食事ができるように工夫されている。女子会と称して喫茶店に行ったり、個別に外食したりする事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を毎日記録し、職員全員で共有し記録に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力や口腔状態に応じた声掛けや介助、見守りを行い口腔内の観察を行うと共に必要時歯科訪問診療を行っている。また朝食前に舌ブラシ使用し舌ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを全職員で把握し、その方に合った時間帯で声掛け・トイレ誘導をし、自立にむけた快適な支援を行っている。必要があればその方の自立度に応じた排泄物品を使用している。	介護度が重い人もオムツは使用せず、一人ひとり排泄パターンを把握して時間を見てトイレ誘導をしている。昼間と夜間とか状況に応じてパット類を変えている。リハパンからパンツ使用へと自立に向け支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ牛乳を毎日一回提供し体操を一日2回設け体を動かして頂いている。排泄には腹部マッサージを行い排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人に合った時間に入浴していただいている。入浴前・入浴中にしっかり声掛けをし、快適な入浴時間を過ごしていただけるよう配慮し、入浴後は整容・水分提供をしリラックスしていただけるよう配慮している。	週2,3回の入浴だが希望すればいつでも入れる。入浴を拒否する時は無理強いせず時間を変えたり翌日にしたり利用者の気持ちに沿った支援に心掛けている。入浴しない日は足浴を行う。顔や手をマッサージするなど気持ち良く入浴出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方よりアロマヒーリングの音楽を流し入眠を促す。居室の温度調整を行い、眠れない時は温かい飲み物を提供し入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間でお互いに服薬する方の日付・名前を声に出して薬袋の確認を行い、服薬後も飲み込みの確認を必ず行ってから離れる対応をしている。服薬後飲み残し、名前を声に出して薬袋の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や、その時の気分に合わせて得意なことや好きなことを活かして園芸、家事、手芸、日常を過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や買い物散歩など、ご本人の希望を取り入れながら外出、ドライブ、散歩を楽しめるよう工夫していく。年に1回、一泊旅行(今年度は、別府への旅行)を実施している。	日常的に近くの港や付近を散歩している。スーパーにも歩いて出掛けている。毎年1泊旅行で別府や湯布院、山香などへ行っている。利用者の希望に合わせて喫茶店に行ったり、ドライブに出かける等積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭のお預かりはしていません。 必要な時にはご家族に了承を得て一緒に買い物に行き立て替えを行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族には暑中お見舞いや年賀状を送っている。 ご希望があれば電話をかけて会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は整理整頓し綺麗な空間で過ごして頂ける様に努めている。	南側に大きな窓があり明るく開放的である。 介護ロボットが利用者とおしゃべりしたり歌ったりして笑顔が絶えない雰囲気である。アニマルセラピーとして犬が家族の一員となり、なごやかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ・DVDをゆっくり鑑賞出来る様に数人掛けのソファを数か所設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は季節の飾り付けや写真等飾り思い出作りに努めている。又ご家族の協力でご本人の好きな物や使用されていた物を持参され家庭に近い環境作りにも努めている。	これまで使い慣れた家具や小物を家から持ち込み、家族の写真や趣味で撮った山の写真などを飾っている。ご本人の意向を考えその人らしい温かい雰囲気の部屋作りになるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、お風呂場の入り口には張り紙をし場所を掲示している。物の配置にも気を配り危険防止の為に工夫をし環境整備に努めている。		